

懇話会 2024年第2回

企画委員会

今回の懇話会のテーマは2件です。1件目は、NHK大河ドラマの「光る君へ」を題材にして、会員のY氏からお話いただきました。今回も軽快な語り口で、興味あるそして引き込まれるお話でした。会員のY氏のお話の内容は、寺社マイスターの資格が基盤になっていました。

2件目は、会員のS氏から、コロラド州立大学での日本語ボランティア実施状況の報告でした。コロナ禍などで数年のブランクがありましたが、ワールドステイクラブの活動の柱が復活したのがとても心強く感じる内容でした。S会員の日本語ボランティア資格と豊富な経験からの指導内容について、敬意を表しました。

なお会場は定例会場になっている飯田橋のボランティアセンターで、親密度が高く楽しい有益な懇話会でした。

日時：令和6年11月20日（水）13:30～16:45
場所：東京ボランティア市民活動センターC会議室
（JR飯田橋駅隣接セントラルプラザ10階）
参加費：300円
参加者：16名（講師を含む）



講師 会員 寺社マイスター Y氏
会員 CSU日本語ボランティア S氏

13:30 開催挨拶 理事長

13:35 講演I「ひかる君 in 京都」

講師 寺社マイスター Y氏

講師からは、既に3回懇話会でお話いただき、ユニークと軽妙なトークは大好評でした。出席者と対話をしながら進める講演は、会場と一体となり楽しく有益な時間でした。

京都の寺社についてのマイスター試験2級の資格者です。京都についての豊富な知見に基づいて、まず歴史的な平安時代の状況の紹介があり、その中で源氏物語の著者「まひろ」を取り巻くいろいろな事柄についての蘊蓄の語りがありました。



●平安時代の様子 源氏物語「まひろ」の時代

奈良仏教の勢力を逃れて、長岡京を経て794年平安京に遷都した。貴族による平和な政治を行い、和歌や文学の文化国家をめざしました。

しかし、疫病が流行するような事態になったのが実態で、夜は燈明だけの暗さが輪をかけて死霊が跋扈すると考える世でした。

●源氏物語が世に出る 平安時代中期11世紀頃
藤原氏全盛の時代に、宮仕えの「まひろ」後世にいう紫式部が貴族の内情を描いたのが、この物語です。原本は伝わっていないものの、写本が後世に残っています。尾張徳川家の写本が、現在国宝になっています。



●源氏物語の紹介

冒頭の「いづれの御時にか、女御、更衣、あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり」は読者を引き込む魅力にあふれています。全体は第一部、二部、三部と宇治十帖の54帖構成になっています。この中で、光源氏の人生の栄華と苦悩、そしてその子孫を、半世紀にわたって描いています。大きな舞台での大きなドラマ紹介です。

当時から貴族社会に人気が高く、写本により現在に伝わっています。

●「まひろ」の所縁の地

上京区の蘆山寺が、まひろの邸宅跡です。ここで、源氏物語を創作したと思われます。

現在ここの庭園は、源氏の庭と云われます。



北区大徳寺通北大路を下がったところにあるのが、雲林院です。この境内に、「紫式部産湯の井」があります。この近くで生まれ育ったようです。



お墓は、堀川北大路にあります。この付近の地名は紫野といいますが、紫式部に因んだものらしく思われます。やはり、有名で人気抜群とおもわれます。

15:15 予告「新春七福神巡り」東海七福神

催行 2025年1月7日火曜
 集合 京急新馬場駅 解散 京急 大森駅
 順路 品川神社を起点に旧東海道沿いに巡る
 時間 2時間

15:20 講演Ⅱ「コロラド州立大学 (CSU) 報告」

報告者 S 氏

講師は、ゴールドコーストやダナン・ホーチミンなどに長期にわたる滞在の経験をされています。今回のCSU日本語ボランティア活動は、その経験を基にした、奥行きのある活動の報告でした。

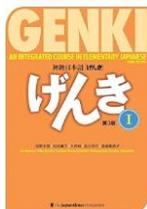
現地での様子を、スライド使用での紹介です。コロナ禍で、WSC 主要な活動であるのに損なわれていたのが復活できたことが、強く印象づけられました。

CSU 訪問を体験している出席者にとって、最新情報の紹介は認識を新たにする有効な機会でした。あらためて、現地の生の情報の大切さを痛切しました。

報告いただいた内容は、2024年夏号の会報に掲載済みですので、そちらをご参照ください。



米国コロラド州
赤塗がコロラド州



日本語テキスト
「げんき」

お礼と感想
 日本語ボランティア
 委員長 (東京都豊島区)

CSU への日本語ボランティア派遣は実に 5 年ぶり、切れかかった WSC と CSU の関係を S 氏がつないでくれたと言っても過言ではありません。

2019年3月に会員の I 氏が訪問して以来、2020年2月から COVID-19 (コロナ禍) が発生して海外旅行すら非常に厳しい状態となったなどが最大の理由で、中断してしまいました。また、常宿としていたエリックさんのアパートが、WSC からの派遣が長期中断により便宜をはかっていただけになりました。

折悪しく、WSC と CSU の関係を最初から築き守っていただいたベーケン・真子先生の退任という事態もありました。

このような事情のもと、海外日本語ボランティア委員会として、「CSU との関係もこれまでか？」と感じていた矢先でした。S 会員から CSU への応募の話があり、実現しました。

とはいえ、経済環境としては極度の「円安」であり、アメリカの物価は日本の 2 倍以上の値段です。このような状況下、S 会員は自分の信念と決断で CSU での日本語ボランティアを決心していただきました。「彼の偉大英断」であり、敬意を表します。

S 氏の今回の発表で強く印象付けられたのは、「探求心と好奇心」です。コロラド訪問にあたり、「自分のミッション」を定めたことです。そしてその内容はアメリカで今何が起きているのか、この目で見てきてやろうという若々しい気持です。その姿勢が、CSU 日本語学科の学生達から、S 先生への「尊敬の念」をいだかせたものと思います。3 ヶ月という短い期間でしたが、S 会員にとっても貴重でかけがえのない時間であったことと思います。

本当にありがとうございました。そしてお疲れさまでした。



興味深く聴講

15:45 終了